

■杏子がバイト痴漢→催眠ドスケベダンサー墮ちして明日香がミイラ取りになる話

新たな決闘者の戦場・デュエルリンクス。世界中の人たちと繋がれる仮想空間の中で、決闘者は現実以上に生き活きとした時間を楽しんでいる。

賑わいに比例してショップも需要が高まり、臨時アルバイトの一人として杏子が雇われていた。

元々、仲間の応援のつもりでデュエルリンクスに来ていた杏子。渡米資金を稼ぐ絶好の機会とあり、持ち前の明るさを活かして接客に励んでいたのだが……



「はい、お待たせー！ デュエルがんばってね！」

むにゅっ♥

「っ……！」

客の一人にカードパックを渡した時、臀部に何かが触れる感覚。気味の悪さを感じて一瞬表情が強張るも、杏子は笑顔のまま接客を終え、そそくさとカウンターに戻る。

——デュエルリンクスの人気が増え続けることはいいことばかりではない。

リンクス内の混雑に紛れ、猥褻行為に走る者も発生するようになった。

激増する痴漢行為は後を絶たず、このショップの人手不足も客の平均モラル低下、それによる女性店員退職が理由の一つだ。

杏子もまた被害に遭い、不快感と怒りに拳を握るが……





(今だけ……！ 今日だけの辛抱よ……！)

繁忙期という建前で、今だけショップのバイト時給は十倍近くに上がっている。それを思い出し、本来ならば殴りつけるはずの拳から力を抜き、痴漢を払うだけに止める。

杏子の夢はニューヨークでダンサーになること。そのため渡米資金がなければ何も始まらない。

今日のバイトを終えれば目標額に大きく近づくことを支えに、大量の客を捌いて混雑を乗り切っていく。



(少しの痴漢くらい我慢しないと……！)

◆
「んぐっ……ふう。さー、あとは午後だけ……！」

昼休憩を挟み、ドリンク（レッド・ポーション）で回復して業務再開。
早速一人の少年決闘者が来店するが……

（うわ……あれって前にお尻触ってきた子じゃない？）

その客は午前、杏子の尻を触って来た痴漢客の一人だった。
可愛い顔に似合わず杏子の尻とパンツの感触、弾力を確かめるような厭らしく大胆な手つきは嫌でも記憶に残っており、すぐに思い出す杏子。
気を抜けば不快感が表情に出そうなのを抑え、作り笑いと思えない自然な笑みを浮かべて接客する。

【お姉さん、サイ・ガールが出るパックってどこだっけー？】

「……そのパックね。えーと……」

（早く渡して戻ろ……）

デュエルリンクスはバーチャル空間だが一部はリアリティ重視で、杏子が務める店も現実の店舗を再現している。
そのため欲しいパックの場所が分からない、という客もおり……この少年はそんな初心者を装って女店員を近寄せ、後ろを見せた際に触るという手口を使っていた。

混雑に紛れて行われれば痴漢の特定が難しいやり口だが、やり方さえ分かればある程度対処は可能。
相手がギリギリ触れない距離から手を伸ばし、笑顔を崩さないままパックを渡す。確認後、背中を見せないように向き合ったまま一步下がる。
これで相手が追ってでも来ない限り痴漢されることはない。安心して小さく息を漏らし、杏子はすぐにレジカウンターに戻る。



(……これでよし、と。あとはカウンターで接客してれば大丈夫でしょ♪)
「はい、いらっしゃいま……」

がっしいっ♡

「あひいいっ♡♡」

レジ接客を再開した矢先。覚えのある感触が数段強烈なものとなって襲い掛かる。

いつの間にかカウンター内に潜んでいた痴漢少年が杏子の後ろに隠れ、手をスカートの中に潜り込ませて尻を鷲掴みしたのだ。

少年の姿はカウンターに隠れているため、杏子以外には見えていない。レジに並ぶ客の視点では杏子が急な悲鳴を上げたことになり、怪訝そうになるのを慌てて取り繕う。

(なんでこいつがここにいるのよ!? それに……)

もみっ♡ もみっ♡ もみっ♡ もみっ♡

(こいつ……なんて厭らしい触り方して……っ)

「あっ……な、なんでもありません! お、お買い上げ、ありがとうございます
いましたー♪」

とりあえず目の前の接客を終え……

「……あんた！ いつまで触ってんのよっ！」

大胆にも尻を揉み捏ね続ける少年の首根っこを掴む。

軽い接触ならともかく、ここまで踏み込んだ猥褻行為をされれば杏子も黙っているわけにはいかない。

勝手にレジカウンターに入ったこと、痴漢行為に出たことを叱り付けようとするが……

「あんた、さっきも触って来たでしょ！ このエロガキ！ そもそも、ここ店員しか……」

ぐちゅっ♥

「あっ♥ ひ、人の話を……」

【お姉さん、怒ってる割にメチャクチャ濡れてるね♪ ちょっと触っただけでこんなになってる♪ ほら、カメラにもばっちり♪】

「なっ……なに、撮ってんのよ……！」

(あたし、いつの間にこんなに濡れて……こんなのおかしい！ こいつが何かしたに違いないわ！)

悪びれる様子もなく、痴漢行為で反撃してくる少年。更にデュエルリンクス内のスクリーンショット機能まで使い、杏子のスカートの中——パンツ越しにも分かるほど湿り切った女性器——を撮影しており、堂々と見せてくる。

【まー、改造した『ゴブリンの秘薬』使ったら、誰でもこうなるんだけどね♪】

「改造？ まさか、デュエルリンクスのデータに何かしたの？ こんな犯罪……それより、その写真消しなさいよっ！」

【あ、またお客さん来たよ。写真見せたらどんな顔するかな♪】

もみっ♥ ぐちゅうっ♥

「や、やめなさいっ、そんなことっ……！ あ、いらっしやいませ……っ♥♥」

(あんな写真見られたら、なんて思われるかわかったもんじゃないわ！)

今は大人しくするしか……今日の間だけやり過ぎて……いえ、隙が出来たら、すぐにでも……)

性欲は年相応にあれど、杏子は簡単に痴漢に悦ぶような女ではない。特にデュエルリンクスではなおさらのこと。にもかかわらずあっさりとした痴態を晒したのは、少年が何か細工をしたということだ。

ハッカー少年の、年不相応な下卑た笑顔での脅迫。完全に通報案件だが、他の客がいる前では大人しくしていなければ少年が何をしでかすかわからない。

幸いにも写真に顔は写っていない。今日のバイトを耐えてすぐ辞めれば、たとえ写真が拡散されても杏子のものだと知られる可能性は低い。

もちろん、隙があればすぐにでも通報する。

緊張や羞恥で顔を赤くさせながら、杏子は恐る恐る接客を続ける。

【そんな怖い顔しないでよ、気持ち良くしたげてるんだからさー♪】

もみゅっ♥ もみゅんっ♥ ぬちゅぬちゅぬちゅっ♥

(うるさい……黙ってなさい……っ♥♥)

もみゅっ♥ ぎゅむゅっ♥ ふにふにふにふにっ♥

「え……と、ガイアの入ってる、パック……は……っ♥」

(やっぱりこいつ、手つきが厭らしすぎる♥ お尻だけじゃなく……あそこまで♥ なんて触り方して……っ♥♥)

注文されてパックを選び、確認する。その間にハッカー少年は杏子の尻肉と陰部を好き勝手に弄り回す。

尻たぶの弾力を確かめるように揉んだと思えば、股間をふにふにと軽く小突く。強すぎず弱すぎない刺激を一定のリズムで続ける、見た目には寄らずテクニカルな愛撫。ほぼ無抵抗で受けさせられたからか、みるみる媚熱が高まっていき、恨めしさ半分にも感心してしまうほど。

ともすれば喘ぎ声が出てしまいそうで、顔はすっかり紅潮し、接客時の声も途切れ途切れになる。とはいえ、堪え切れないわけではない。

密かな被虐欲を満たしてくる尻肉愛撫、湿ったパンツ越しに一定間隔で続く陰唇・陰核への圧迫。続けられたところで、本来なら絶頂には程遠いが……

データが弄られたせいか、今の杏子は感度が何倍にも高まっている。自慰などよりも遥かに早く……客に見られている中、その時が訪れる。



(慣れてるみたいだけど……これくらい、余裕……っ♡)

「お……♡ おまたせ、しまし……」

ぐちゅんっ♡ くりくりくりくりっ♡

「あ♡♡」

(こいつ♡ 調子に乗ってるわね♡ こんな、感じるわけ……♡)

ぬちゅ♡ むにゅっ♡ くり……っ♡

「っ……んんっ♡♡ すいません、何でも……ありません……から……♡♡」

ぐみゅっ♡ ぎちっ♡ ふにふにふにふにっ♡

「では……合計で♡♡ ご、ごひゃっ♡♡ ……500、ジェムで、ございます……っ♡♡」

(気持ち良くないっ♡♡ お尻……揉まれたくらいで♡♡ あそこ♡♡ クリも……♡♡ こりこり……くにくに♡♡ された……くらいで……♡♡)

ぬる……ぬちゅ♡♡ こりこりっ♡♡ ぎちゅううう♡♡

「はい♡♡ ほんとに……大丈夫……ですから……っ♡♡ っ……ちようどっ……いっ♡♡ いただき……ます……っ♡♡」

(やめっ♡♡ いい加減に♡♡ そんなにクリトリスっ♡♡ いじられたらあ♡♡)

ぐちゅっ♡ ぐちゅっ♡ ぐちゅっ♡ ぐちゅっ♡

「ふっ♡♡ くふっ♡♡ おっ……♡♡ あ……♡♡ ありがと……ござい、ましたあ……♡♡」

(お客さん……♡♡ 早く行って♡♡ じゃないと♡♡ あたし……♡♡)



ぐちゅんっ♥ ぐちゅううっ♥

「あひっ♥♥」

(あたし♥♥ ただの痴漢なんか——♥♥♥)

びくんっ♥♥ プシャアアアアッ♥♥

「あ……………っっ♥♥♥

イッ……………クうう……………っっ♥♥♥」

客が心配そうにしながらもパックを買い終え……レジから去った直後、官能の壁が決壊。

尻と股間に溜まった肉悦に耐え切れなかった杏子は、吐息では済まされない声量で喘ぎ、小さな飛沫と共に仰け反ってしまう。

少年におかしくされていなければ、まず発することはない牝の啼き声。漏れ出した後にハツとなり、慌てて口を押さえるが、羞恥心と情けなさのあまり客の方を見ることができない。

(ウソ……♥♥ あたし……こんなエログキのせいで♥♥

お客にイッたのバレて♥♥ み、見られて——♥♥)

【いや～危なかったね♪ 『静寂のサイコウィッチ』持ってなかったらバレてたところだよ♪】

痴漢中の接客をギリギリやり遂げたことに、少年がカードをチラつかせて啜う。

また何か仕込んだのか、そのおかげで最後の潮噴きと嬌声の音は聞かれずに済んだらしい。が、逆に言えばそれがなければ、少年以外の客にも痴態を見られるところだった。もしそうなってれば、今頃はどうなっていたか——むしろ、あの接客だけでも悟られたのでは。

痴漢されながら……もしくは性具でも使って善がりながら接客する変態淫乱女だと思われていたら。それを言いふらされてもしたら。

気が気でなくなり……杏子は未だパンツ越しに粘液を滴らせるのに構わず、『通報』ボタンに手を伸ばす。

「っふ……ふざけんじゃ、ないわよ……！」

ぐちょっ♥ おしっ♥

「もうあんたみたいな変態に付き合ってるわい！ 今すぐここから消えなさい……」

【はい『洗脳』】

「————♥♥」

(なにこれ♥♥ あたまのなか♥♥ かきまぜられ————♥♥)

少年がデュエルリンクス内では見覚えのないカードを見せた瞬間、杏子の思考が雲のように軽く、霧のように淡くなる。

まるで脳——精神を直接弄られているかのような、とりとめもなく高揚した感覚。身体に力が全く入らず、なのに時間だけは妙に長く感じられ、少年の軽薄な笑みがつぶさに見て取れる。

【これリンクスでは未実装だから使いたくなかったんだけど……】

(こいつ♥♥ またなにか♥♥ したんじゃ♥♥ もう……なにもさせちゃ……いけな……♥♥)

何かされたのでは。これ以上事態が悪化する前に、考え、動かなければ……そう思うほど思考が鈍り、身体が固まり、時間が止まり——

【ま、いっか♪ てことで、もうボクにもお客にも痴漢にも快樂にも逆えれないから、夢のためにがんばって耐え抜いてね♪
痴漢にイキまくりのドスケベ淫乱お姉さん♪】

少年が聞こえぬ声を届かせ、指を弾いた瞬間、杏子の時間が再動する。



「わかったわ♥♥ 痴漢だろうと何だろうと♥♥
耐えてやるわよ♥♥
そんなもので私の夢の邪魔はさせないんだからあ♥♥」
(そうよ♥♥
こんなやつを通報したって意味なんかないわ♥♥
どうせ快樂には逆らえないんだから♥♥
どれだけ痴漢されても♥♥ たとえイカされても♥♥
決して逆らわずにバイトをやり遂げることだけ
考えなきゃ♥♥)

立場より正義、筋を通すことを優先すべき。その考えはいつの間にかどこかへ消し飛び、杏子は何かに憑かれたように痴漢耐久バイトの続行を決意していた。
少年に逆らわず、痴漢快樂に素直になること。それが正義であり気持ち良いことだと認識し、パンツからまた半透明の粘液が零れ出る。

【お客さん来たよ。お姉さんダンサー志望なんでしょ？ ついでにダンスの練習もしときなよ】

「い……いらっしやいませへえ♥♥」

へこへこ♥ へこへこっ♥

「ご注文はいかがなさいますかあ♥♥」

【あ、あの……その……】

おあつらえ向きに来店した新たな少年客に、快樂のまま緩んだ表情で挨拶。

どこから聞いたのか、杏子がダンサーを目指していると知るハッカー少年は接客しながらのダンス練習も命じたため、即座に応じて身体を揺する。

ダンスと言っても多種多様だが、なぜか好みでもないセクシーさ重視の踊りで浅ましく腰を前後に振りたくる。

露出度が高い衣装ではないものの、制服と変わらない格好で腰を振ればミニスカが翻ってパンツは丸見え。

少年どころか大人の手にもあまる巨乳が惜しげもなく揺さぶられ、客は目のやり場に困ってもじもじしてしまう。

【お、お姉さんどうしたの？ いつもはこんなんじゃ……その……】

杏子の接客はもはや逆セクハラ状態で、客は美女のドスケベダンスに数秒で股間テントを張るが、逆にどうしたらいいのか分からず固まってしまう。

それにハッカー少年がほくそ笑み……

「何のカードが欲しいの？♥♥ お姉さんに言ってごらん♥♥」

【あ、その……】

——はい、『狩猟本能』『生存本能』『巨大化』発動♪

【お姉さんが欲しい！】

ぎゅむうっ♥

「あはあっ♥♥」

またカードを使用した途端、今度は客の方が変化。本能全開で杏子に抱きつき、股間は可愛げのあるものから強烈な肉剛へと変わり果てる。

改造カードの効果で本能的な部分と生殖器を強化した結果、絶倫と化して痴漢行為に走ってしまったわけだが……杏子のようなスタイル抜群美女にパンツ丸出しのドスケベダンスを見せられては、こうなるのも致し方なし。

ギラついた目で杏子の身体の感触を味わってくるが、杏子の方も抱きつかれた刺激に艶のある声を出している。

「あんっ♥♥ さ、触りすぎよ♥♥ 他のお客さんも見てるんだからあ♥♥ お……お姉さんは♥♥ 売り物じゃないのお♥♥」
(なんであたし♥♥ こんなエログキに触られて……気持ち良く……♥♥)

刺激を受けたことで意識を支配する高揚感が揺らぎ、一瞬理性を取り戻す。
可愛げのある小さな男の子とはいえ、面識のない男に抱きつかれてここまで気持ち良くなることに違和感が生じるが——

【折角買ってくれたんだから、もっと得意のドスケベダンス見せてやりなよ♪】

【うん、もっとお姉さんのダンス見たい！】

「だから……お姉さん♥♥ 買えないのよ♥♥ ど……ドスケベダンスなんてええ♥♥」
(誰が♥♥ こんなエログキたちに♥♥ ドスケベダンスなんか見せるもんですか♥♥)

——『踊りによる誘発』発動♪

へこへこへこへこっ♥

「踊るっ♥♥ お姉さんドスケベエロダンサーになるのが夢なのっ♥♥ もっと私の踊り見てええっ♥♥」
(ああああああっ♥♥ 嫌なのに♥♥ こんなダンスしたくないのに♥♥ 腰っ♥♥ 動くたびに♥♥ 気持ち良ひいいいい♥♥)

またハッカー少年がカードを使った途端、卑猥な踊りへの抵抗感が激減。身体が勝手に背を向けて尻を突き出した状態で踊り出してしまう。妖しく腰を振り尻肉を揺らす動きが堪らなく心地いいと感じ、先程より更に大きく激しく身体を動かす。一体なぜこんなことをしてしまうのか。小さな疑念と抵抗、莫大な恍惚で混乱する杏子のパンチラダンス尻を、客はまじまじと見て更に興奮。今にも手を伸ばしそうなところを、形だけの理性で杏子に問う。

【ねえ、触ってもいい？ いいよね？】

(ダメよお♥♥ 触ったら♥♥ 気持ち良くなっちゃうからああ♥♥)

ぶるんっ♥ ぶるんっ♥ ぶるんっ♥ ぶるんっ♥♥

「いいわよっ♥♥ 今はキミのターンなんだから♥♥ 隙だらけのドスケベ尻に♥♥ ダイレクトアタックしないとお♥♥」

ばちいっ♥ びくうんっ♥♥

「あっへえええええっ♥♥」

(ドスケベダンスだけでも気持ち良いのに♥♥ こんな気持ち良すぎるうう♥♥)